

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インド)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2018年12月9日~12月23日の期間で、インド・バルーチとダヘージにおいて4度目となるCIS（カップリング・インターンシップ）を実施しました。バルーチはグジャラート州に位置し、デリーから西に飛行機で1時間ほどのバードラ空港から更に車で2時間程の町です。連携大学はインド工科大学ハイデラバード校（IITH）であり、4名の参加学生はハイデラバードからの参加となりました。CISの事前研修は宿泊拠点のバルーチにてホテルで2日間実施しました。大阪大学学生からは、日系企業理念、CSRなどに係る英語のプレゼンテーションをIITH学生に対し実施しました。その他、コミュニケーションや接合科学基礎知識に関する講義なども実施し、学生同士のアイスブレイキングと企業実習への準備の場として有意義に学びました。その後5日間の行程でISGEC/日立造船が工場を構えるダヘージにて企業実習を行いました。ISGEC/日立造船での実習では、会社紹介、人事部、プランニング部、プロジェクト部、デザイン部、溶接部他、各部署からの業務説明を始め、製品積み込み港の訪問など、製造工程から製品輸送までを細かく学びました。他方、幹部層、ショップで作業をするワークマンやオフィススタッフへのインタビューの機会

も多々あり、今回のテーマである「スタッフとワークマンのコミュニケーションの課題と対策」に即した質問が多く出され、学生は意欲的に取り組みました。日本企業との比較を含めた様々な質問も投げかけられ、時には予定時間を大幅に超えた議論も交わされました。

最終報告会には、ISGEC/日立造船の Rai チーフオペレーティングオフィサー始め各部門長の方々、日立造船より研究所の中谷溶接技術部長、阿部同シニアリサーチャー、当研究所西川教授等、総勢22名の参加がありました。2チームに分かれて行われた発表では、コミュニケーションの問題となる要素（原因）を突き止めるための比較アンケート調査の具体的手法提案や、実習を通して考察されたポジション間の情報に対する意識、認識の差から来るコミュニケーションの問題、及びその一環として浮上する安全対策の問題などにも言及があり、対応の提案が行われました。企業からは実践的な提案があり、活用の検討を重ねたい、学生との協議が社内を活性化させているなどのコメントがありました。

学生達は滞在中、近隣のヒンドゥー寺院訪問、マハラジャのお城、結婚式の行事への参加などの文化体験も行いながら、異文化理解と友情を深め、充実した時間を過ごしました。

